OFFICIAL NEWS LETTER

J.LEAGUE NEWS

Vol. 172
31 May 2010

J.LEAGUE

編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ http://www.j-league.or.jp

スポーツで、もっと、幸せな国へ Jリーグ百年構想









2010 Jリーグ ヤマザキナビスコ カップ

通算入場者数が1,000万人を突破

1992年にスタートしたJリーグヤマザキナビスコカップ。今シーズンの予選リーグ第3節で達成

Jリーグヤマザキナビスコカップの試合が初めて行われたのは、1992年9月5日。以来、18回目の開催（95年は開催なし）となる今年の大会の予選リーグ第3節で、通算入場者が1,000万人を突破した。6月を迎えて予選リーグも大詰め。11月3日（水・祝）の決勝を目指して、J1リーグの18チームが熱い戦いを繰り広げる。（4ページに関連記事）

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS

Calbee Canon KONAMI AIDEM マイラン製薬 Leopalace21 plenus Coca-Cola

J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER 朝日新聞
LEAGUE CUP SPONSOR ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR FUJI xerox
EQUIPMENT SUPPLIER molten For the real game
J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER Johnson&Johnson
J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER スカパー!

ファミリーJoinデイズ



2010Jリーグ特命PR部長の木下優樹菜さんはガンバ大阪へ

Jリーグの各クラブは4月29日から5月9日のゴールデンウイーク期間を中心に開催されたJ1・J2リーグ戦の会場で、恒例となった「ファミリーJoinデイズ」のイベントを開催した。今年で11回目となる同イベントは、試合前に家族で楽しむことができる多彩な企画が人気。今年は天候に恵まれた会場が多く、各地で参加者の笑顔と歓声が絶えなかった。多くの家族連れ、友人同士のファン・サポーターでにぎわい、思い思いにさわやかな初夏のひとときを過ごしていた。

ベガルタ仙台





ファミリーで、ユアスタへ行こう!!

母の日の5月9日、ユアテックスタジアム仙台では、先着200名の女性にカーネーションをプレゼント。2001～03シーズンに仙台に所属した岩本輝雄氏（写真中央）と、2010Jリーグ特命PR部　女子マネの足立梨花さん（写真左）も、カーネーションの販売をお手伝い。二人はトークショーも行い、母の日の思い出などを話した。また、同2日は仙台のクラブマスコット「ベガッ太」の誕生日。前日の1日にはMr.ピッチからプレゼントが贈られた。

モンテディオ山形



山形のサッカースクールコーチと選手たちが指導に当たり、親子で楽しめるサッカー教室が行われた。小学1～3年の男女と保護者の2名が1組。NDソフトスタジアム山形のピッチ上でサッカーの技術を学び、ミニゲームを楽しんだ。

水戸ホーリーホック



ケーズデンキスタジアム水戸のピッチ上では、親子でボールリフティングにチャレンジした。プロのフリースタイルフットボーラーが巧みな技術の数々をデモンストレーション。続いて水戸の選手たちとともに、親子でリフティングに挑戦した。最後には全員で成果を披露した。

栃木SC



栃木県グリーンスタジアムでは、フェイスペイントを施した親子連れが元気にフォトコンテストに参加。それぞれ、最高の決め顔で写真に納まった。小学6年の内田樹（いつき）くんは「今日も頑張ってほしい」と栃木にエール。小学5年の井原早緒理（さおり）ちゃんは「勝ってほしい。目指せゴール！」と年間パスを見せながら声を上げた。

川崎フロンターレ



春日山部屋協力イベント「イッツア スモウワールド2010」
～1日家族で楽しもう!～

等々力陸上競技場の「川崎フロンパーク」では、大相撲の春日山部屋が協力するさまざまなアトラクションが行われた。「どすこいPK対決」では、ゴールキーパーを務めた力士を相手に、子どもたちがPKにチャレンジ。力士たちも本気を出したという「Kids綱引き対決」（写真）では、子どもたちも大喜びだった。

浦和レッズ

こどもの日「レッズキッズフェスタ」



埼玉スタジアム公園全体で、親子で楽しめるさまざまなスポーツイベントを実施。クラブマスコットの「レディア」と「フレンディア」の間に生まれた双子の兄妹、「シャーレくん」と「ディアラちゃん」も子どもたちに大人気だった（写真）。また、家族で楽しめる恒例のサポーターカレンダー撮影会も行われた。

横浜 F・マリノス



日産スタジアムの東ゲート前噴水広場では、おなじみの「トリコロールランド」を実施。スタジアム横のしんよこはまフットボールパークでは、「親子サッカースクール」を開催。また、試合前のピッチでは親子連れが、同スタジアムの芝生管理スタッフの指導を受けて、芝部の補修作業を行い、ピッチの芝生に触れる貴重な体験をした（写真）。

アルビレックス新潟



東北電力ビッグスワンスタジアムのピッチ、トラックで、サッカーとスポーツに親しむさまざまなアトラクションが行われた。ピッチ上では家族単位でチームを分け、芝生の上でミニゲームや、サッカースクールのコーチによるサッカークリニックを実施。親子、チームで協力しながらアトラクションを楽しんだ。

清水エスパルス



エコパスタジアムでは、親子が手をつないで徒競走。小学生以下の子どもたちと保護者の皆さんが、力いっぱいトラックを走った。その姿に、スタンドからも大声援。家族4人で参加した大木さん一家は「運動会のようで、とても楽しかった」と口をそろえた。参加者の皆さんはいい汗をかいて、大満足だったようだ。

FC岐阜



岐阜メモリアルセンター長良川球技メドウのピッチ上で、岐阜の選手、ファン・サポーターの親子の約120名が人文字をつくった。完成した文字は、みんなの目標である「J1（リーグ昇格）」。岐阜市内のサッカークラブのチームメートとともに参加した小学5年の松田凱登（かいと）くんは「選手たちがたくさん話しかけてくれてうれしかった」と笑顔で話した。

ガンバ大阪

万博記念競技場で男子と女子に分かれてイベントを実施。男子はピッチ上でシュートやリフティングなどサッカーアトラクションに挑戦。奈良県生駒市から参加の柳秀哉（ひでや）くんは「（小学）1年生で一番になった」と得意そうに話してくれた。女子はチアダンス教室に参加。その成果を試合前のピッチ上で披露した（写真）。



愛媛ＦＣ



ニンジニアスタジアムで「ゲーフラ」作りに挑戦。試合前にはコンテストも行われ、出来上がった自慢の作品を舞台に上がってお披露目した。写真は、松山市内の小学校に通う小学5年の深田遼（はるか）くんと同3年の郁（かおる）くんの作品。兄の遼くんは「二つのゲーフラを合体させるように、兄弟で協力してつくった」と話してくれた。

ギラヴァンツ北九州



北九州市立本城陸上競技場では元Ｊリーグ選手の城彰二氏（写真中央）とMr.ピッチも参加して、ファミリーフットサルが行われた。北九州市の小学3年、向井敏幸（としゆき）くんは「城さんを相手にゴールを決めて気持ちよかった」と大喜び。同市の小学校のサッカーチームに所属しているという小学5年の小西華人（はなと）くんは「城さんはすごく強かった」と驚いていた。

サガン鳥栖



家族でつないだ手を離さず、どれだけ早く目標までたどり着けるか。2家族を合わせ、1チーム8名以上でゴールラインからスタート。家族のきずなを発揮し「だるまさんがころんだ」の掛け声で前進、そしてストップ。鳥栖の選手も加わり、お父さん、お母さんもベストアメニティスタジアムのピッチ上で童心に帰って楽しんだ。